



1

0. 前回コメントへの応答

【レポート関係】

- ・レポート課題（2）について前回コメントへの応答で現代音楽という言葉に注意し、現代音楽の課題という受け取り方をしているという回答だったが、それに対して近代的音楽観では説明できない部分を指摘というのはどういうことでしょうか。思想や音楽の作り方の移り変わりによって近代的音楽観では考えられない、受け入れられなかったであろうことを新たな観点で説明を行えば良いのでしょうか。

→その捉え方で間違いありません。

音楽社会学、民族音楽学、ポピュラー音楽研究等の観点を活用することを考えてみてください。

2

0. 前回コメントへの応答

【コメント紹介】（高校までの音楽教育について）

- ・小学生の頃の音楽の授業では、琴を弾いたり、和太鼓や雅楽の演奏を鑑賞したりするなど、日本の伝統音楽に触れる機会が多かった。また、各国の民族音楽が紹介されることも多く、その印象が強く残っている。そのため、日本の音楽教育が西洋クラシックに偏っているという見方には、私も必ずしも当てはまらなと感じた。
- ・自身が受けてきた音楽教育については小中学校で音楽の授業を受けてきたが歌うことや楽器を触るという実践的なことを中心にやってきたので音楽原論の授業で音楽初期から現代の音楽との結びつきや背景などを学ぶことで自分自身の音楽の知識を広げることにつながり、小中学校の経験とともに実践的なことと知識が広がることにより音楽の幅がより広がったと感じる。

3

0. 前回コメントへの応答

- ・自分がやってきた音楽の授業は確かにクラシック以外の伝統的な能や狂言なども学習する機会があったが主に行ったのは西洋的なものが多かった。また高校の時にも音楽の授業があったがヴァイオリンの実技や音楽制作などの授業だったため教える人によって全く違う授業体系であった。
- ・学校の音楽ではあまり文化について触れずにし鑑賞や演奏、コンクールや発表会に向けての練習など、あまり文化やバックグラウンドに触れて勉強してきた訳ではありませんでした。これは後世に受け継ぐという言葉の色んな組織が残しているのにも関わらず、引き継いで行く気があるのかなと疑問を当時から思っていました。

4

0. 前回コメントへの応答

- ・私の小中の音楽の授業では、日本古来の音楽をよくやらされた記憶があります。どんな曲をやったかは忘れましたが、日本の昔の音楽をやったことは覚えています。
- ・小学校ではクラシック中心の鑑賞があり、教科書に沿って音楽を学んでいた。しかし中学校に入ると、教科書に載っていない中国の伝統音楽や英語の歌など、扱う国の幅が一気に広がった。ところが、先生が変わってからは一転して日本の伝統音楽が中心になった。他校の友人に聞くと、私とはまったく違う内容を学んでいたようで、先生の好みで授業内容は大きく変わるのだと当時から実感していた。

→この講義の受講生の経験だけから考えても、

学校や教員によって教育内容にかなり幅があると予想される。

5

0. 前回コメントへの応答

→このようなバラツキの原因として考えられることとしては

- ・教員養成課程の問題：教員が西洋音楽中心(+日本音楽)の教育しか（教育大学等）受けていない

…教えるスタッフの不足、関心
音楽教育学と音楽学の断絶？

- ・公共教育における音楽の位置づけの低さ：受験科目ではない影響

…明治期の学校教育に音楽が導入された理由は
国民の西洋化という明確な目的があったが、
現在はどうか？

6

0. 前回コメントへの応答

・録音技術の発展は音楽の保存・普及に大きく貢献したが、同時に「音楽＝固定化された商品」という理解を強め、音楽の社会的・共同体的な側面を弱めてしまったように感じる。「音源作品」という概念は便利だが、演奏者や聴衆の参加を軽視する危険がある。音楽を「聴くもの」から「消費するもの」へと変質させた点で、近代的音楽観の問題をさらに拡張している。結局、録音技術は「作品中心主義」を強化する一方で、音楽を社会的実践として捉える視点を後退させてしまったのではないか。

→「作品」という概念に限ればそのような見方もできるが、むしろ旧来的な「作品」概念をはみだしていく中で、多くの新しい社会的実践が生まれている。

7

0. 前回コメントへの応答

…例えば、「DJは演奏者か？」という話を以前したが、DJによる実践は明らかに録音技術を前提にしており、録音によって新しいコミュニティや社会活動が生じている例と捉えることができる。

他にも、同じ音源に対して様々な個人がダンスを踊ってショート動画として投稿し、拡散していくという現象も録音技術(+ネット)によって新しく生じた実践形態と言える。

→作品の固定化という面はあるが、新しい社会的活動が生じる基盤となっている面もある。

8

0. 前回コメントへの応答

【補足】

録音による作品には近代的音楽観に極めて合致する面と反する面の両方がある

- ・演奏者がいない(作者の意図の完全な再現)：ハンスリック的
- ・作品と実際の音を分離できない⇔作品と演奏を分ける考え方(ハンスリック的作品の自律)

9

0. 前回コメントへの応答

・録音という新たな技術の登場によって音楽が編集・加工できるようになり音楽家の演奏スタイルを変えただけでなくリスナー側のスタイルも変わったと考える。録音技術はリスナーに音楽を日常として取り入れることを可能にさせたと感じた。

→今回は作品概念や演奏についての指摘が中心でしたが、録音は「音楽の聴き方」を変えたのも確かです。
＝現代を考える上では、演奏会やライブとは異なる音楽聴取を前提にしないてはならない。

…「音楽は持ち歩く/身に着ける」ものになった etc.

10

0. 前回コメントへの応答

・音源が流行ったことによってライブと音源は少なくとも違いがあり、口パクをしているアーティストもいる中で、生歌がうまいアーティストに価値を感じる人が多いのも現代の傾向ではないかと感じた。

→同様のコメントはいくつか見られました。
現状としては「生演奏こそが本当の音楽で、録音はそれに劣る」という価値観が社会の中にあると言われています。
この見方は、20世紀初頭の録音が広まり始めた頃から有り、「生演奏」(Live)という言葉もその頃生まれたようです。

一方で、生演奏だけが本物で録音を低く見ることへの批判も…むしろ両者は別物と捉えた方が良いかも？

11

1. 近代的音楽観の再確認

・現代において無意識的に前提とされている考え方の多くは、西洋近代に由来している。

例えば

- ・音楽作品と作曲家は密接に結びついている
- ・作曲家は音楽作品の細部の音まで自分で決める
- ・音楽は作曲家や演奏者の内面(感情)の表現である 等

⇓⇓⇓

- ・音楽作品は作者から切り離して評価されるべき
- ・音楽と政治は切り離すべき 等

講義では、これらの考え方がどの様に成立してきたかを紹介 →

12

1. 近代的音楽観の再確認

→非常に大まかに捉えると

- ・音楽作品と作者(や演奏者)を結び付ける考え方
=ロマン主義的
- ・音楽作品を自律したものと捉える考え方(作品の自律)
=カント美学的/ハンスリック美学的

と言える。どちらの考え方も18~19世紀に成立した。

⇒重要なのはこれらの考え方が成立した背景

13

1. 近代的音楽観の再確認

→音楽についての近代的な考え方(=近代的音楽観)は
当時の社会的な背景と連動していた

(1部の例を挙げると)

- ・教会や宮廷が力を失い、資本主義社会へと移行したことで
作曲家は自らの商品として作品を売る必要が出てきた
→作品と作者を結び付ける考え方 (著作権の起源の一つ)
- ・教会や宮廷から独立し、楽譜によって流通することによって
場所や文脈から切り離して捉えられるようになっていた
→作品を自律したものと捉える考え方

14

1. 近代的音楽観の再確認

→音楽に関する近代的な考え方は現代にも残っており、
その考え方が過剰に作用している場合がある

- cf. 佐村河内作品に対する発覚前の高い評価と、
発覚後の評価の急落
- …作品と作者を過剰に結び付けていると
それを悪用する者が出てきた場合の社会的な反響の大きさ
や評価の乱高下につながる

15

2. 今後考えていく必要があること

また、近代的音楽観が「近代」の社会状況と連動していたのであれば、
「現代」の社会状況の中でも近代的音楽観が妥当であるかを
考える必要がある

→西洋近代(18~20世紀初頭)と現代日本(20世紀~)を比較すると

- ・共通点：資本主義社会、市民社会
- ・相違点：複製(録音)技術、デジタル技術、
情報技術(特にインターネット、AI)等の発達
グローバル化

→この相違点による何が起ころうか??

16

2. 今後考えていく必要があること

→社会状況や技術的状况等が変わってきたことを考えれば、
音楽の在り方も変わっているのではないかと予想できる

しかし、佐村河内事件への反応やAIの音楽に対する反応を見ると
現代でも近代的音楽観に基づいて音楽を捉えようという
傾向が強い

→それでいいのだろうか?
近代的音楽観が現代でどこまで妥当性があるのか?
ということを再検討していく必要がある。

17

3. 現代の状況と近代的音楽観の比較

少なくとも、
近代的な「作曲(家)・作品・演奏・聴衆」といった概念は
現代では当然のものではなくなっている

【作曲(家)】

- ・近代：個人の表現として作品全体を作り出すという音楽観
…現実には共作(オペラ等)や編曲、引用もあった

現代：個人が全てを作曲するのではなく
スタジオでの共同作業で音源制作される
(AI作曲も始まりつつある)

18

3. 現代の状況と近代的音楽観の比較

【作品】

- ・近代：「楽譜」として固定可能なものが作品だという音楽観
※現実には、即興的な部分や楽譜に書けないニュアンスも存在していた
- ・現代：楽譜に書かれた音だけではなくスタジオやソフトウェアで作り出された音源が作品となってきた
cf. The Beatlesの諸作品

19

3. 現代の状況と近代的音楽観の比較

【演奏】

- ・近代：書かれた楽譜を人間が忠実に再現するという音楽観
※現実には19世紀でも即興的な演奏もされていた
- ・現代：人間による演奏が不要な場合も増えている
(作品と演奏を分けられない場合も多い)
cf. 打ち込みによる音楽、ボカロ、etc.

20

3. 現代の状況と近代的音楽観の比較

音楽と社会 (音楽社会学、ポピュラー音楽研究の視点) cf.第10回

- ・近代：社会から独立した領域として音楽を扱おうとしていた
※現実には、社会と密接に結びついていた
- ・現代：音楽研究においては、社会と音楽の結びつきを考えているが、社会の中では音楽と社会を切り離そうという言説も少なくない
※音楽に対する評価も社会的なバイアスの影響を受けている可能性がある

21

3. 現代の状況と近代的音楽観の比較

グローバル社会 (民族音楽学の視点) cf. 第11回

- ・近代的音楽観は西洋由来の考え方であり、西洋以外の地域にその考えをそのまま適用するのは問題がある
(西洋中心主義になってしまう)
- 西洋以外の地域には「作曲家・作品・演奏」や上演型とは違う音楽の捉え方があり、それぞれの地域の考え方を尊重すべきだろう
- 民族音楽研究等では、西洋的な音楽観を前提としないように気を付けている

22

3. 現代の状況と近代的音楽観の比較

【前衛的な音楽】

- ・20世紀以降の前衛的な音楽の中には**近代的音楽観の乗り越え**を目指しているものもある
→当然、近代的な音楽観で捉えるのが難しい部分が多く出てくる
※逆に**バロック以前の古い音楽にも近代的音楽観は当てはまりにくい**
…作曲家の重要度の低さ、即興的演奏、etc.

23

4. 20世紀中葉以降の前衛音楽

- 講義で紹介したストラヴィンスキーの音楽は、近代的な西洋音楽から現代音楽への転換点に位置する
→それ以後の西洋のクラシック系前衛音楽についてもいくつか紹介
- 「偶然性」を取り入れた音楽：作曲家が音を全て指定するのではなく、演奏の場で偶然発生する音を音楽として聴こうという試み。
- (例)
- ・くじ引きのルールを決めておき、そのくじで演奏する音を決める (ジョン・ケージ)
 - ・予め幾つかの音のパターンを準備しておき、演奏者がそこから選んで自由に組み合わせる演奏する 等々

24

3. 20世紀中葉以降の西洋音楽

Terry Riley: In C

テリー・ライリー
(1935-)
《in C》(1964年)は
準備された音型を
複数の奏者が自に
選択して演奏して
いく



25

4. 20世紀中葉以降の前衛音楽

何故このような試みがされたのか？

…作曲家という「主体」が全てを決定するのではない音楽を求めた
ストラヴィンスキーのように作曲家が細部まで全ての音を
コントロールする考え方に対する「息苦しさ」のような
ものがあった

→現代では西洋のクラシック系の音楽においても、
作曲家の「表現」や自律した曲の「構造」を前提としない音楽が
作られるようになっていく

26

4. 20世紀中葉以降の前衛音楽

構造を拒否する音楽

- ・近代：音楽で重要なのは構造（ハンスリックの形式主義）
- ・現代：敢えて構造を捉えにくくする音楽の登場

例) 過剰な反復、極端に長く持続する音(ドローン)
構造よりも音色が目立つようにする

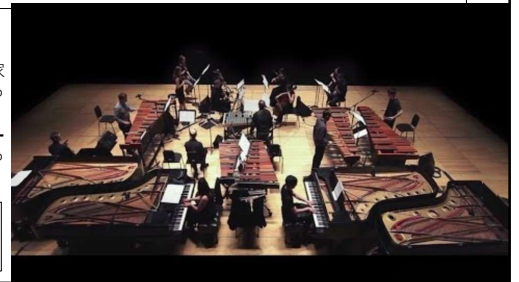
《In C》にも同様の側面がある

27

4. 20世紀中葉以降の前衛音楽

スティーヴ・
ライヒ(1936-)
アメリカの作曲家
反復を特徴とする
作品を作った
ミニマル・ミュー
ジックと呼ばれる

Music for 18
Musicians,
by Steve Reich



28

4. 20世紀中葉以降の前衛音楽

prepared piano

ピアノの弦に
物を挟んで音色を
変化させる
曲構造よりも音色
が全面に出る

John Cage -
Sonata II (from
Sonatas and
Interludes) -
Inara Ferreira,
prepared piano



29

4. 20世紀中葉以降の前衛音楽

クラウトロック
ドイツの前衛的な
ロック(1970'~)
…後のテクノ等に
影響した

Tangerine
Dream |
Boiler Room x
Dekmantel
Festival 2018



30

4. 20世紀中葉以降の前衛音楽

→これらにおいては過度の反復や長い持続音、音色の強調によって音楽の中の個別の要素(メロディーやリズム的まとまり等)の構造が捉えにくくなっている

→結果として、音楽の構造ではなく、瞬間瞬間の響きへと注目が移っていく傾向にある

作品によって意図は異なるが、そもそも構造を創ることを重視していない

31

5. まとめ

⇒作品と作者の結びつき、作品の自律という考え方は両方とも「西洋近代」という特定の時代と地域の影響で成立したもので、**絶対的/普遍的ではない**ということに注意する必要がある

…現代日本では近代的音楽観の影響が強いが、自分が無意識に持っている常識を絶対的なものと思わないで、どのような考え方が現代において適切/必要かを今後一人一人が考えていく必要があるのではないか？

32

コメント

・今回の講義について、質問・感想等を書いて提出してください。

- ・提出先：Canvas
- ・提出メ切：本日21時

33

資料

○近代的音楽観に関する参考文献

- ・ハンスリック(渡辺護[訳])『音楽美論』岩波文庫、1939年
- ・岡田暁生『西洋音楽史』中公新書、2005年
- ・渡辺裕『聴衆の誕生』中央公論新社、2012年

○20世紀の前衛音楽について

- ・柿沼敏江『〈無調〉の誕生』音楽之友社、2020年
- ・沼野雄二『現代音楽史』中公新書、2021年
- ・小柳カヲル『クラウトロック大全』Pヴァイン、2014年

○その他

- ・鬼龍院翔/柴 那典「「CDが売れない時代」に、金爆・鬼龍院翔が問いかけること」<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/54251>

34

資料

- ・「Terry Riley: In C」
https://www.youtube.com/watch?v=R_vYeyO7rOE&list=RDR_vYeyO7rOE&start_radio=1
- ・「Music for 18 Musicians, by Steve Reich」
https://www.youtube.com/watch?v=71A_sm71_BI&list=RD71A_sm71_BI&start_radio=1
- ・「John Cage - Sonata II (from Sonatas and Interludes) - Inara Ferreira, prepared piano」
https://www.youtube.com/watch?v=xObkMpQqUyU&list=RDxObkMpQqUyU&start_radio=1
- ・「Tangerine Dream | Boiler Room x Dekmantel Festival 2018」
<https://www.youtube.com/watch?v=cdFHE73aOMI&t=203s>

35